

第4回栗原圏域会議

【日時】令和7年1月16日（木）13時30分から15時30分まで

【場所】栗原合同庁舎 第一会議室（西）

【委員からの主な意見】

（1）第6期みやぎ観光戦略プランの最終案

①全般

○県全域についてはある程度網羅性がないといけないと思う。各地から意見を吸い上げたものだと思うので、特に異論はない。

○戦略（5）交通アクセスの充実については、乗り物に関してのことだけで、道路整備は入らないという認識で良いか。そうであれば、宿泊税を財源として道路整備を実現してほしい。

②数値目標

○11万人泊まで伸ばすことを目標に、そのためにどうしていくかが今後の課題と感じた。目標値については了解した。

○栗原は日帰り客が多いことを踏まえると、目標値は宿泊者数に設定するよりも、客単価に目標を定めた事業設計の方が地域に合うのではないかと感じた。

（2）圏域の施策の方向性及び取組

○ガイドを育成する際に、地域のことをよく知るという視点での育成も大事だが、お客様のことを理解し、お客様のニーズをつかんでガイドできる人材の育成という視点も必要。

○栗原に来てからの二次交通の手段も含めて、栗原の歩き方の分かりやすいモデルがあるとよい。

○栗駒山に行く道路では、携帯電話の電波が入らないところが多々あるので、各キャリアへの働きかけをしてもらいたい。

○旅の情報については、交通手段も含め、YouTubeなどで「ここに行ってみた」という動画が上がっており、そのルートなどを参考にしている人も多い。栗原の観光のPR方法の一つとして、そういった動画を作成して発信することもよいのではないか。

○出張などでレンタカーを借りる際、車好きとしては移動手段も楽しみたいと考える。例えばスポーツカーやランドクルーザーなどわくわくするような車が借りられるサービスがあるとよい。

○「長屋門」について、地域資源としてぜひ入れてほしい。

○「旧奥州街道」という言葉が入ったのは良い。参勤交代で使われた道路を「サムライロード」としてPRしてもらえるとよいと思う。

○二次交通について、JRやレンタカー会社などと共同で「栗原観光ナビ」を作るといった取組も必要ではないか。街道のPR活動をする中で、スマホで街道をナビゲーションするマップを作っている。そういうものもあれば歩きやすくなるのではないか。

○写真の説明文について、ジオパークビジターセンターが何を体験する施設なのかが分かりにくいので、補足が必要ではないかと感じた。

○ガイドの育成について、具体的取組の方向性や着地点をどこに置くか決まっているのか。ジオガイドのように組織として成立しているものを目指すのか、観光客におもしろいところを教えられる地域

の住民を目指すか。市としても連携していきたい。

○10月の紅葉シーズンは首都圏からの来客も多く、シャトルバスの発着時間に乗客が集中する。紅葉シーズンの期間だけでも駅前でマルシェを開催できればPRにつながるのではないか。

○インバウンドは体験を重視する。アメリカの高校生の受け入れでは、長屋門でのもちつきやしめ飾りづくりなど地域の特色ある体験が好評だった。